

思い出

高桑利和氏
小野塚純夫氏
熊倉孝好氏
鳥井克巳氏
皆川輝保氏
大倉康二氏

岡村茂氏
小柳新一氏
三富勝廣氏
堀田宏氏

祝創立50周年
新設東立新津工業高等学校
記念事業
平成24年11月

祝北信越大会出場
高校生ものづくりコンテスト
旋盤作業部門



伝統と創造

第13代校長

高 桑 利 和

創立五十周年おめでとうございます。
新津工業高等学校が創立半世紀を迎えて、
私自身だけでなく、関係者各位におかれましては、応時を偲び深く感慨無量に耽っております。
このことと存じます。

私が新津工業高等学校に勤務したのは、昭和五一年からの五年間と平成八年・九年の二年間、二回の御縁でした。私の生涯に最も思い出も多く、忘れ得ぬ学校であります。十五年経過の今でも鮮明なる記憶が甦ります。思えば諸先生方の新津工業高等学校を愛する気持ちの深さと生徒諸君の直向きな姿です、同時にPTA、同窓会の皆様方はじめ各後援会等、並びに地域の皆様方の数々の御厚意でした。これまでに当校を支えていただいた原動力がこれからも発展の強力なパワーとなることとでしょう。

そして広々とした約二万坪近い校地、なかでも素晴らしい施設設備、優れた教師陣等
新津工業高等学校はますます内外ともにオンリーワンとして各方面から大いに期待されていると聞いて居ります。振り返って思えば、私は在任当時、全校集会時に機会をみて何回となく「名門新津工業高等学校」と訴え、時

に叫んだことを懐かしく思い出します。今、
当校が益々の躍進の中、古き良き伝統を進めてきて、それが新しい創造の課題に繋がるものと確信しております。現在、時代の大変遷のなかで新津工業高等学校の在りようも大きな変化、発展、転進そして新しい出発などさまざまな局面があつたのは当然であります。

現在、ロンドンでオリンピックが開催されていますが、スポーツ面だけでなくこれからの時代は、より急速にグローバル化が進み、空と海にと世界を駆け巡る社会となっております。

校歌の歌詞に「新興の意気に燃えたり」の如く、常にチャレンジ精神を持ち続けることです。そして諸先輩の方々に引き続き、世界をターゲットに挑戦して下さい。それには、社会が求める技術・技師の基礎知識、技術の基本を学び、体験しつつ、それらを超えることです。そこに発想、アイデアが生まれると思えます。
在校生諸君の益々の前進を期待致しております。

新津工業高等学校の一層の御発展をお祈り致して居ります。



智の泉・技術の灯

第17代校長

小野塚 純 夫

一 はじめに

創立五十周年おめでとうございます。私の赴任した期間が、平成十七年四月から平成二十年三月の三年間でした。現在は新津工業高校から離れて、四年が経過しております。在任中は創立四十周年記念行事が終了して三年程度経過した中で、学校の存続が危ぶまれていた頃でした。さらに新潟県教育委員会の中長期高校再編整備計画の中では、募集停止の予定校で新聞紙上にも公表されおりました。

二 V字回復の兆し有り

新津工業高校に赴任して感じたことは、校舎が広い割には勢いがなく寂しい学校という印象でした。学級減が迫り教員数や生徒数が減っていく。ところが少ない生徒数でしたが、多くの生徒が元氣よく挨拶をする声に、希望の光を見つけました。部活動の指導教員や生徒との信頼関係の強い教師の力で生徒の生活態度は立派なものがありました。学級が募集停止になる状況下でも、前に向かっていく姿勢こそ学校の存続活性化に希望を与えるものでした。

三 小さなことが出来ない人は大きなことは出来ない

日常の当たり前のこと、挨拶や遅刻せずに登校すること等が出来る人が、やがては社会に出て大きな仕事を成し遂げていくものです。そんな生徒全体の姿に接している中で、私はふと思ったことがあります。樹木が伐採され、樹木にまだ体力（樹木ですから、樹力が

正しい）があれば、切り取られた部分から新しい芽が出ます。それを藁（ひこばえ）といいます。私には、新津工業高校の印象と藁が重なり合ったのでした。その「ひこばえ」になぞらえて、「Ecoプロジェクト」と名付け、様々な取り組みを行いました。特にインターシップ（生徒による企業体験）で学校と企業の連携が始まりました。そのことを積極的にマスコミ（新聞社やテレビ局）に流しました。マスコミは新津工業高校がやがて募集停止になることを知っておりましたから、学校が一生懸命に存続をかけてがんばる姿がニュースになったのでした。新聞やテレビに載ることで周囲からの反響も高まってきました。様々な取り組みが功を奏し、学校の存続と学級増が決まり、まさに藁から大きな樹木に成長したのです。

四 学而思

「学而思」は論語の一部です。「かくじし」と読んでよいでしょう。また、学びて思う、思いて学ぶ、と読んでも良いでしょう。

新しいことへの挑戦は、頭でっかちにならない。（知識だけではカバーできない）技能偏重になりすぎない。（技術技能だけでもカバーできない）両方を身につけることという戒めです。

新津工業高校のこれからは、「学而思」の精神で前進あるのみと思います。校歌の一節「智の泉技術の灯」に思いを込めて。



弓道部の思い出

旧職員

熊倉孝好

新津工業高校の創立五十周年おめでとうございます。

私は昭和四十六年から平成十年三月まで二十七年間勤務しました。縁あって平成二十二年四月より一年間、非常勤講師として三年生の課題研究、一年生の情報処理を担当。

十二年ぶりの校舎は耐震工事が施され様子も変わっていましたが、実習室には当時製作した実習教材や工具がそのまま残っていて特に電気工事室は模擬家屋、工具、材料がいつでも再開できる状態であることがうれしくもありました。

在職した二十七年間の思い出の一つが弓道です。当初は仮設弓道場が一棟と二棟間東側中庭にあり、浄化水槽から現在視聴覚教室に向かって矢を射ておりました。雨天時や冬期間は練習できないので、もっぱら一棟屋上に上がる階段踊り場で巻藁練習でした。

故人となられた初代顧問渡部貢先生にご尽力頂いて、待望の五人立弓道場が昭和四十八年に完成した時は生徒と共に喜んだ事を思い出します。

グラウンド東側で風が強く吹くため、フェンスにフジを絡ませたりヒバを植えたりして風除けにしました。今でも六月になると花が咲いていると思います。照明設備が設置され環境が整うと、伝統を引き継ぐという責任が重く感じられるようになりました。

その後、昭和五十四年に県大会優勝して以来、着実に成績を残せるようになりました。県選抜大会四回、県総体団体七回、個人六回優勝。

平成元年には全国選抜大会で技能優秀校にも選ばれました。全国総体は昭和五十六年団体三位、昭和六十年に笠原和行君、平成五年に清野克也君が個人優勝しています。

私の転勤後の活躍も目覚ましく、全国総体には平成十二年鈴木俊昭君、平成二十一・二十二年に山本洋輝君が出場しています。

これからも新津工業高校が益々発展すると共に、弓道部が活躍することを期待しています。



「肩組みて 手を取りて ああ」

旧職員

鳥井 克巳

創立五十周年記念おめでとうございます。私は二度、新津工業高等学校電気科を卒業して。一回目は、自分の卒業である。二度目は、卒業式で電気科の生徒を卒業させることのできた幸せ者である。

前者の思い出は、「長髪許可」である。当時新津工業と言えば、「丸坊主」であった。それが嫌だと言って他校に進学する者もいた。頭髪検査ではブロックゲージを使い、違反するとバリカンを入れられたのを覚えている。しかし、生徒総会で議論になった。ある先生は、「おまえ達は、工業が丸刈りであることが分かった上で入学して来たのだ。」と言ったのに対して、一人の生徒が発言を求め「僕は、それを変えるために入学して来ました。」と言い返した。その後の経緯は詳細には覚えていないが、昭和四十四年には丸刈りストップとなった。騒然とした中にも緊張感ある生徒総会であった。それが当時の新津工業でもあった。生徒手帳では画期的な「会議の進め方」が記されている理由ではなからうか。

後者の思い出は、「マラソン大会」である。当時の同窓会には襷リレーの駅伝方式で出場して貰っていた。もちろん学校側職員も襷をつなぐのである。アンカー区間は同窓会長と学校長の戦いとなるのである。

私は受け持ちの区間を走り終え、逆走してA君を迎えに行った。スタート前に、私と会うまでは走り続けることを約束しておいた。最終走者となった彼は、私の顔を見てニコッ

としてくれた。「これならゴールできる。」と一緒に走り出す。もちろん周りには生徒は誰もいない。あの「ゴール」の横断幕さえ撤去されていた。校長先生が彼を見つけ、駆け寄って来てA君を励まし伴走してくれた。体育の柳先生が襷をつないでゴールテープを作ってくれた。襷はつなぐものである数人の先生が拍手する中を彼はゴールすることができた。ふらつく彼の肩を組んで校舎に向かおうとした時、彼は大粒の涙を流しながら泣き出した。マラソンは嫌いではないけど、みんなより時間がかかるので迷惑をかけるのでイヤなんだと。この日のために、二ヶ月前から練習してきたこと。今年は途中棄権しないこと。ゴールできて嬉しかったこと。泣きながら話してくれた。私も彼に余計なことを言ったものだと後悔し、A君に詫びた。私も涙ぐみながら、三ヶ月前から練習してきたことを告白した。二人で手を取りて完走を喜んだ。閉会式の時、大会新記録を樹立した生徒より、私には胸を張った彼の姿が大人に見えた。達成感を味わったことが誇らしく思えた。

そして、彼のゴールに拍手してくれた生徒・同窓会員・先生方に心より感謝しました。あの校歌である

「肩組みて 手を取りて ああ」と心の中で私はひとり唄った。



昔と今 これから

現 職員

皆 川 輝 保

創立五十周年記念おめでとうございます。正直、ついこの間創立三十周年行事を終えたばかりに、もう半世紀、五十年という一つの節目を迎えることとなり驚いております。十年ほど前、新津工業高校を後にし、また縁あって赴任し、こうして職員として勤務しております。振り返りますと当時、三十周年記念編集委員の一人として原稿を集める立場でした。記念誌が発行され創立から三十年の移り変わり様や数々の色あせたスナップ写真などを含め、二十世紀から二十一世紀の過渡期の世相と何人かの期待と不安がさまざまな思いとなって寄せられておりました。ページ、ページをめくる度に感慨に浸り驚いたものでした。しかし、それもつかの間に学校は慌ただしい毎日でした。新しい形の工業高校を模索しながら変化していった時でした。機械科二年级が減となり、機械システム科が新設され、何か聞き慣れないしやれた名前の科になりました。カリキュラムを始め実習内容も変わり、自動化の波と共にNC、CNC、MC、FA、CADなど略語が濫立しながら先端技術、設備が一新し何もかも新鮮になっていきました。三四棟木造実習室が塗装の色も鮮やかに鉄筋二階建てとなり、何かにつけ外からも注目されるようになりました。見学会や学校訪問などよくありました。そんな夏休みのある日、印象深い出来事がありました。小須戸中学校PTAの会の皆さんの学校見学会があった時のことです。私は実習棟のMC、ロボットなど案内し最後に質疑応答がありました。あるPTAの方より「機械科と機械システム科の違いはどこにあるのですか？」と予想しない質問をされ、当事者として困惑したものでした。とにかく、次から次へ新しいことを覚えるのに一杯、時代と地域の要請に応えるにおおわらわ、科自体の位置づけ、今からのことなどそれぞれころではなかったのです。

記念行事で三十周年お喜びを市民と共に走ろうと題して磐越高速自動車道が工事半ばでありながら、国土省（当時）と道路公団のご厚意によりマラソン大会が催されました。市民も生徒も職員も一緒に走り走りました。眼下の蒲原平野を見下し、体で風を切り、たくさん汗を流したものでした。（前村田校長も参加しました。）皆で新しいことに取り組み、互いに意見を出し結束し、良い方向へとエネルギーが向かっていった時代で生徒も新しいことへ挑戦していた時代でもありました。それから幾年月…。

さて、新津工業高校の昨今、今日と言いますと、消えかけた学校の灯がこの五年という短い間、学科改編から機械、機械システム科がなくなり、工業マスタ―、生産工学、ロボット工学、日本建築科五学級にふくれあがり、またまた大きな波が押し寄せてきたのは周知の通りです。皮肉にも新津工業高校の明日を想像できる人はだれ一人といないのではないのではないのでしょうか。時代が人を変えていくのか、人が時代を変えていくものなのか、またはその両方なのか分かりません。行先は分からずとも工業高校は、いつも史面に立ち「ものづくり」を国の柱としていかなければなりません。今は、資格、検定の習得なのか、技能や技術の伝承なのか、何もない日本にとって、誰にも真似できない技術、創造であることには間違いないと思います。新しい形の工業高校づくり。にしても、生徒が技術に輝いていける、この新津工業高校に入学して良かったと、卒業して良かったと、ものをつくりながら人をつくり、自信と誇りを持っていけるような学校。今後百周年と続くものと願ってやみません。

「蒲原平野めぐらして
雄々しく起てるわが学び舎」
新津工業高校のますますの発展をお祈りします。



新津工業の10年を振り返って 思うこと

現 職 員

大 倉 康 二

この度は新津工業高等学校50周年、誠にありがとうございます。

私事ながら平成15年4月に新津工業高等学校へ保健体育教師として赴任し、今年で10年目を迎えることとなりました。この間毎年のように新入生達と出会い、卒業生達と別れを繰り返しながら、卒業後もいまだに付き合っている卒業生達も数多くいることに非常に嬉しく感じております。

かつては最大学年8クラスの大規模校だったようですが、私が赴任した当初は2・3学年は4クラス、1学年は3クラスと小規模校に移り始めていた頃でした。担当した生徒指導係と柔道部顧問は現在も変わらず継続して携わらせて頂いております。

その昔は正直、新津工業と言えばやんちゃ坊主の集まりとして有名な学校であり、私自身が高校生の頃も新津工業高校の生徒は硬派と言えはいいのか？恐怖さえ感じるような時代のあったイメージがあります。その時代を見てきた先生方が、私が赴任した頃にはまだ何人かいらつしやいました。少子化の影響もあり、統廃合の高校整備計画の各校として挙げられ、存続の可能性があるとすればそれまでの新津工業高校のイメージを変えていかなければ本校は存続しないだろうという話から、まずは生徒の身だしなみやマナーなど見直そうと生徒指導係が中心となり、学校全体での取組がなされる中、私は若さに身を任せ厳しく生徒と向き合っていたのではなかったかと記憶しています。

それと同時にクラブ活動にも力を入れ、歴代の顧問が強化してきたこともあり、夢中になって、ひたすら生徒の強化に没頭し、県外遠征に定期的に出稽古に行き、中学生や一般の方も交えて週に2日は10時頃まで夜練習なども行っていた頃が懐かしく感じます。

先生方の取組と指導の意味を理解してくる生徒達の素直な心から、学校の雰囲気も良い方向へ年々変わってきている様子が見られ、外来者の方から「新津工業の生徒は挨拶がいいですね」などと声をかけられることもしばしばありました。また、周りの人に不快感を与えない行動をしようということから、頭髪

服装指導や、校内でもきびきびした行動をとることなどを徹底させ、概ね定着してきました。

そんな中、平成17年8月に漏電による柔道場の火災が発生しました。古い扇風機の電源コードが原因でした。自然発火とは言え、電化製品の不良に気づけなかった私に管理責任が問われることは否めませんが、火事は新聞報道やテレビのニュースでもながれまじり、学校存続のためにイメージアップに協力した。生徒達や勝つことに必死に頑張ってきた柔道部員に申し訳ない気持ちで、その後の数日間はかなり意気消沈していたことは今でも鮮明に覚えております。その後の火災の後始末もかなり大がかりな作業でしたが、運動部を中心とした、一般生徒がボランティアで参加してくれ、また会議室を仮設の柔道道場とし、火災から3日後には練習が再開できるよう全校をあげて取り組んでくれたことに今でも非常に先生方と生徒達に感謝しております。

統廃合の対象となる学校に柔道場の修繕費はつかないだろうと半ばあきらめかけていたが、校内では新津工業杯中学校剣道大会を実施し、存続のために中学校や保護者の方にも本校に興味をもってもらいたいという活動などや、変わってきた新津工業高校の生徒達の努力の様子を地域住民の方々から評価されたからなのでしょう。PTAや同窓会、地域住民の方の働きで県費を賄える方向に話が決まり、柔道場が再建できたことに深く感謝申し上げます。その翌年、新津工業高等学校の存続が決定し、現在に至っております。

末筆に今年度設立された日本建築科は現在小体育館を実習場所として使用し、非常に困難を極め、また不備の中、作業を行っているのが現状でございます。日本建築科のビジョンにあるとおり、実習棟の設立にむけて、何卒、同窓会長はじめ会員の皆様方より学校の現状を把握して頂き、新津工業高校全体が益々の発展していくことにお力添えをいただきたいと思います。

火災の武道館
年度内復旧へ
新津工業高
平成18年2月17日(金)
新潟日報の記事

昨年八月に漏電による火災で一部が損傷し、使用できなくなっていた新津工業高校(新潟市)の武道館の復旧工事が三月末までに完了することが、大白開かれた県教育委員会定例会で報告された。復旧費は五百五十万円に上見通し。県教委は初、代替施設で対応可能と判断。武道館を使用していた柔道部は、校舎の会議室等練習を続けていた。復旧工事の実施について、県教委財務課は「保護者や地元住民から強い要望があったため」としている。



開校時のおもいで

前実行委員長・前同窓会長
第1回機械科卒業生

岡 村 茂

今 顧みれば、五十年の歳月は、『あつと
いう間のようでも有り』『いろいろなことを
思い出せば長かった月日のようでもあり』と
いう心境であります。

特に、一筆加えるならば、戦後のベビーブ
ーム時代に生まれ 小、中、高校とも大勢の
競争相手の中で揉まれて育った我々にとつて、
高校受験の時は、ちょうど学校が新たに設置
される頃で「機械いじりが好きだったこと」
と「地元の高校だから」ということで進学を
希望したものです。

ところが入ってみてビックリ。新設高校とは
いえ体育館もなければグラウンドも未整備。

そのうへ肝心の実習室もないというありさま。
“ないないづくし” また一年間の体育授業は
屋上か近くの高校や中学校のグラウンドを借り
ての「間借り授業」でした。当時は他の高校
がうらやましかつたことを思い出されます。
また、規律は厳しく普段の生活や服装のこと
から髪の毛の刈り方まで指導されたものです。

そして、卒業する時がまた大変。どの企業も
学校の評価が定まっていなだけに（採用実

績がないだけに）敬遠しがちで、求人募集が
あつても卒業生三百人のうち約半数が東京や
大阪などの県外への就職となつておりました。
時代と共に教室の建物一棟しかない時期に入
学して以来 次々に設備の充実がなされ、今
では県下一を誇る実業高校に変貌しているこ
とに誇らしく、うれしく、改めて深く感に打
たれるところであります。

向後とも、我が母校が工業高校のリーダー
として、新時代を見据えた教育を取り入れら
れて、ますます隆盛な前途を開拓され、真に
光彩あらしめられるよう、一卒業生として切
望して止みません。

最後に、繰り返しになりますが、
我が人生六十五年において、高校生としての
多感な時期を新津工業高等学校で学べたこと
そして人一倍「母校愛」溢れる自身として同
窓会活動に携わることができたことに感謝し
いついっまでも良き思い出として胸に刻んで
おきたいとおもいます。

本校のご繁栄を祈り、思い出の一端を述べ
させていただきます。



光陰矢の如し

初代同窓会長
第1回電気科卒業生

小柳新一

創立50周年記念おめでとうございます。顧みますと、団塊世代の私たちが一期生として過ぎ去った日々、本校が創設された昭和38年頃がまるで夢のように、昨日のことのようにも思い出されます。

昭和38年春、入学試験は新津高校で、入学式は第五中学校で行われ本校の第一歩が踏み出されました。ようやく母校の校舎で勉強することができるようになったときの嬉しさは忘れられません。

その校舎は、第一棟の西側半分だけという小さやかなものでした。それでも田んぼの中に立ち並ぶハサ木の間を通る砂利道の向こうに小さくけれども白く輝く近代的な建物それが「田んぼの学校」母校でした。

日常なかなか学生時代をゆっくりと想い返すことの少ない昨今、久々に思い出しています。

(1)授業等・体育の時間はグラウンド・体育館も無く、全校集会や朝礼等も屋上で授業を行ったものです。実習になると校舎と実習工場が距離的にも離れており、雨・雪の時には長靴に履き替えて通ったものです。一方、校歌は無く出来た時の嬉しさを感じたものでした。又、生徒全員の頭髪は丸刈りでした。

(2)資格習得への挑戦・先進校に「追いつき追いこせ」を目標に樹てられ私は電気科でしたので、夏休みに電気工事士受験のため特別講義を受け猛暑の汗だくとなり頑張ったものでした。

(3)運動会・私たちが三年生となり初めて催された運動会、各クラス思い思いのユニフォームそしてグラウンドの回りに組立てられた大きな檜橋・競技とそれに伴う熱気溢れる応援合戦大いに若さを発散させました。

(4)クラブ活動・バレーボール部に属しておりグラウンドの石拾いやローラーを引いて整備したものです。又、先輩格である新津高校まで走りコートを活用したりご指導を受けたものです。回転レシーブが出来なくて自宅の布団で練習したものです。

(5)先生方(恩師)・・・慣れない環境の中でも先生方も若く何事にも熱心にご指導して頂きました。いろいろな不便でありましたが、むしろ学校生活は生き生きとしており創立の意欲に燃え先生と生徒が一体となってやる気十分であったように思います。

(6)まとめ・・・母校の実践「初志忘るべからず」と「協力・責任」を合言葉として良き校風の樹立のため日夜努力され、その結果大きな実績となり県下に注目される工業高校となりました。創立から今日に至るまで、幾多の苦難に耐えて母校を守り育ててこられた先人たちに対して心から敬意を表したいと思えます。時の流れか、県内の工業高校が統合・閉校する中で新津工業高校は飛躍的に伸び、今や「工業マイスター科・生産工学科」さらに「日本建築科」が新設となり更なる変貌をみせております。地域に根ざした学校作りを目指し「HICOプロジェクト協議会」を発足させ、メンバーに推薦され、地域に即戦力を送り込み新津地区を活性化させようと人材育成について学校関係者と地域企業の意見交換さらには学校行事にも参加し地域とのつなぎ役を務めるほか生活指導についてもアドバイスをする事で、インターンシップ(企業体験)・デュアルシステム(企業実習)が本格スタートしました。生徒も実績のある人から教えてもらうことで「意欲・やる気」さらに社会人なら当然の「あいさつ」の良さで、評判になっております。

いろいろ述べさせてもらいましたが、母校で学んでいた当時、何もなかった校舎の周りには家々が立ち並び50年の時代の流れ、第二の人生(65歳)も近づき、しみじみと感じている今日この頃です。

さて、これから新津工業高校の真価が問われる時だと思えます。さらなる「新津工業高校」の御発展を心よりお祈り申し上げます。(終)



卒業して三十九年

第8回電子科卒業生

三 富 勝 廣

新津工業高校創立五十周年記念誠におめでとうございます。

思い起こせば、私が母校を卒業してから三十九年の月日が流れましたが、当時の学校の施設は沖電気製のコンピュータや無響室が揃っており随分恵まれた高校でした。

私の在学中の思い出は、恵まれた施設の中で勉強した他に、夏休み期間中に、コンクールに応募する製図を仕上たり、アマチュア無線の講習、電気工事士等の資格取得に懸命で、将来は自分が創った物で社会に貢献することを夢みて、大汗を流していました。

卒業後は、新潟県を離れ、一時期は会社に就職しましたが、ふとしたきっかけで埼玉県内の消防署で働くことになりました。

私が三十有余年勤務した消防署も平成二十三年十月に市の合併に伴い吸収されました。六十余名から五百四十余名の組織になりました。吸収合併で色々大変なこともあります。高校時代の夏休みに流した大汗を思い、汗をかきながら一からのスタートだと思つて頑張っています。

消防も当時と今を比べると大きく変わりました。火事の発生を早く知らせ、避難するよ

うに住宅用火災警報器の普及と設置が進んでいます。また、救急は救急車に救急救命士が同乗し、手当てを行った後、病院まで搬送するようになりました。ちよつとしたケガや老年寄りの病気など様々なことで、救急車は呼ばれますが、このことで、出動は飛躍的に増え、今では救急車の要請に支障が出ることも多々あります。そこで、救急車の適正利用を呼びかけているところです。

卒業した頃と今とは、こんな事柄からも日本の社会環境が大きく変化していることがよく分かります。

我が母校、新津工業高校も、五十年の歴史の中でいくつかの学科が廃科になり、新たな学科が新設されました。社会の変化に対応した、高度で実践的な新しい技術を身につけた人材を育て、将来、日本のものづくりを築く立派な社会人を育成する母校を誇りに思っています。

最後に新津工業高校を卒業された方々のご活躍と母校の益々の発展を祈念いたします。



手塚治虫の予言通り!? アトムを作れる技術!!

第20回電子科卒業生

堀 田 宏

新潟県立新津工業高等学校 創立50周年お
めでとうございます。

30年程前、私が在学していた頃を思い出し
てみました。

実習でパソコンの授業があり、一班5人位
で1台を囲みやっていた様な記憶があります。
当時は、パソコンが世の中にやっと出始め
た頃でアルファベットと数字、ちよつとした
記号をキーボードから入力してプログラムを
作成。

これで何が出来るの？状態でした。マウス
も無く、記憶装置はカセットテープ、モニタ
ーは白黒ならまだ良い方？グリーンディスプレイ
レイなんていうのもありました。プリンター
なんて高嶺の花。

しかし今では考えられない位、安価で高性能！
パソコンが使い易くなり便利な物として
家庭に浸透し無くてはならないアイテムにな
りました。

私は部活で写真部に所属し、暗室に籠り写
真を焼いていた事もありました。

今ではデジカメに変わり、これもパソコン
同様、誰でも手軽に写真に出来る時代になり
ました。

無線部にも所属し、遠くの人と電話料金を

気にせず気軽に話を楽しんだ事も思い出され
ます。今では、携帯電話に変わり技術の進歩
に驚かせられる毎日です。

きっと世界のどこかで、新津工業高校で学
んだ技術を卒業生の誰かが製品にして私達の
手元で使われているのかもしれないね。

そんな私が在籍していた電子科は当時、最
新の技術「電子」ともてはやされていたにも
かわらず平成17年には閉科になってしま
いました。これも時代の流れ。しかし工業高校
では、現在ロボット工学科などで、技術の先
端を学習し、アトムを作れる技術を学べるの
も時間の問題かもしれませんね。

はたまた、古き技術の匠の技と心を学び、
伝統工法を後世に伝える担い手の育成、日本
建築科の新設によって将来が楽しみな高校に
なってきました。

今後も素晴らしい伝統を引き継ぎ、益々の
発展を心から願います。

この学校に籍を置く事が出来た幸運を喜び
と思います。